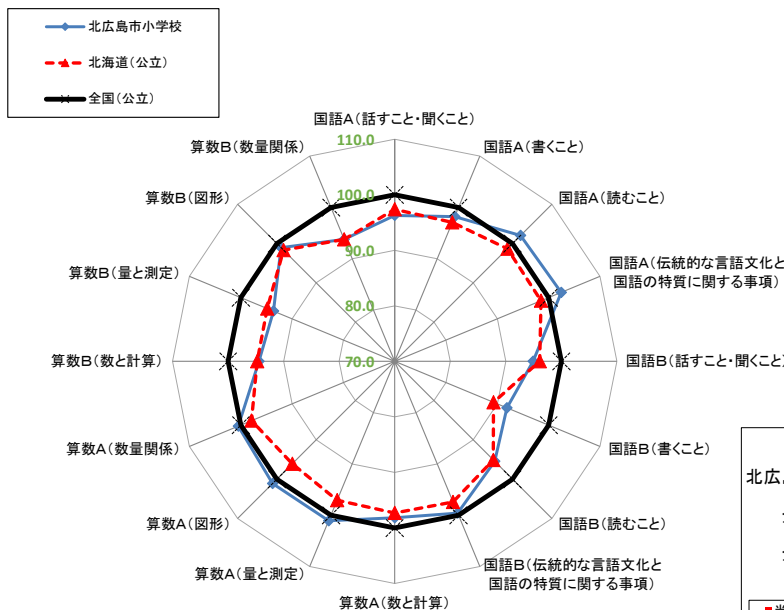


■ 北広島市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:9校、児童数:557名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



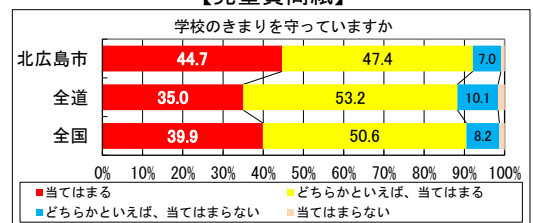
【標準化得点の推移】

文部科学省
「全国学力・学習状況調査」
標準化得点の推移
(北広島市立小学校6年生)

	国語A	国語B	算数A	算数B
H19	99	98	97	98
H20	98	98	97	98
H21	99	99	99	100
H22	99	98	99	99
H24	99	100	100	99
H25	99	99	99	98
H26	101	99	100	98

標準化得点(全国の平均正答率がそれぞれ100となるよう標準化した得点)により、全国の調査結果との相対的な比較をしている。

【児童質問紙】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語A/算数A(習得に関する問題)については、正答率も上昇してきており、指導の成果が表れてきている。 ○ 国語B/算数B(活用に関する問題)については、全道同様、全国に比べ、あと一歩の状況にある。 ○ 国語Aの「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、優れた力を発揮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チャレンジテストの取組なども含め、基礎・基本の確実な定着に向けた各学校の取組が国語の漢字や算数の計算問題などの力をつけている。 ○ 地域や社会の出来事に関心があること、新聞を読んでいること等と児童の学力に高い相関があることが明らかになってきた。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童自身が学校のきまりを守り、生活・学習規律の重要性を理解して落ち着いた日々を過ごすようになってきている。 ○ 教科を学ぶことの重要性の認識、自己有用感の醸成等について、教職員が意識して指導を強化してきたことで、学習のきまり、授業の構造化(課題提示、終末の振り返りの意識化)やノート指導等が定着し、それが学力の向上にもあらわれてきている。 ○ 「総合的な学習の時間」のもつ重要性を認識し、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んできた子ども達がB問題で極めて高い得点であった。 ○ 家庭学習に取り組む児童が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭で学校でのことが会話に登場することや、学校行事に保護者がよく出席することと、児童の学力に、強い相関があることが明らかになってきた。 ○ 教職員が協働して、教科・領域横断的に言語活動の充実を意識したカリキュラム構築に参画したり、小中の教育連携を意識して授業改善を図るようになってきた。 ○ 特別支援教育についての理解が深まり、児童の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行うことが日常的になってきている。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校改善プラン作成の過程で、中学校区単位で小・中学校と市教委協働で分析・検討・協議を行ったことで、RPDCAサイクルが機能し、より実効性のある改善プランが機能するようになってきている。 	

【北広島市の学力向上策】

◎ 北広島市では、平成19年以降毎年実施されている学力・学習状況調査をクロス集計結果なども含めて分析する中で、市内各小・中学校に共通する克服すべき課題を見付け、平成23年度から市の学校教育改善プランとして「五つの提言」を提示し、市内各校の学校改善プランや次年度学校経営構想に盛り込むよう、学校教育指導を行い、市内全体として状況の改善に努めてきた。

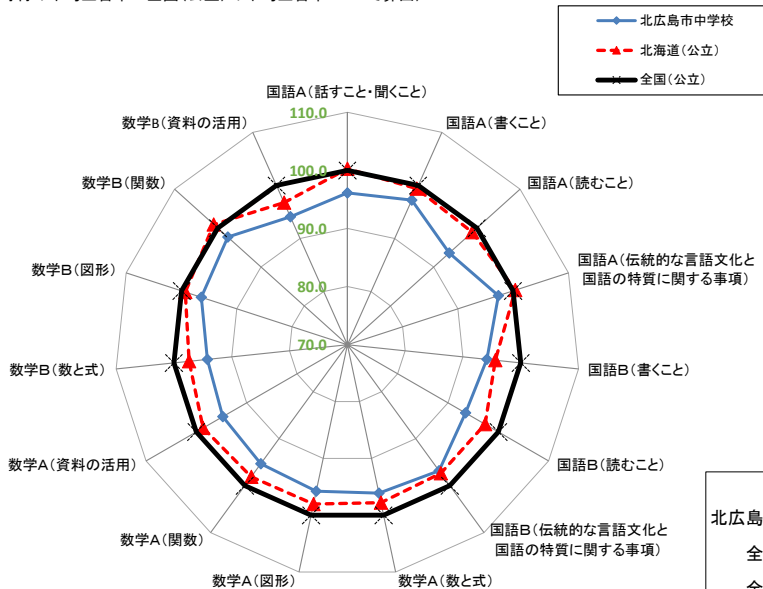
「五つの提言」		(平成23年から)
北広島市の小・中学校では	全 子 て の も 達 に	① 教科の魅力伝える授業を
北広島市の学校・家庭では		② 丁寧なノート指導を
北広島市の学校・家庭・地域では		③ 家庭学習習慣の定着と充実を
		④ 読書に向かわせることを
		⑤ 生活習慣の改善を

◎ 学校教育担当のみならず、社会教育、保健福祉等の側面支援も得ながら推進してきたこの提言を、より実効性のあるものとするために、次年度に向けては、より具体的な数値目標など評価指標を設定(「見える化」)し、学校・家庭・地域三者の協働で、更なる改善を図っていく。また「五つの提言」のうち、学校毎に課題が異なる部分については、学校が独自に目標を設定し、その取り組み、進捗状況を校区の保護者に情報公開するよう、促していく。

■ 北広島市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:7校、生徒数:585名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



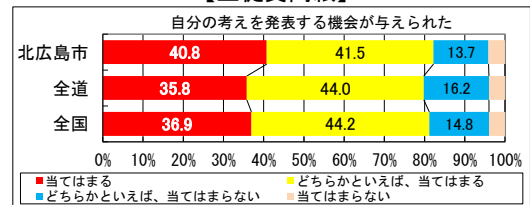
【標準化得点の推移】

文部科学省
「全国学力・学習状況調査」
標準化得点の推移
(北広島市立中学校3年生)

	国語A	国語B	数学A	数学B
H19	99	99	99	100
H20	99	98	98	98
H21	100	99	100	100
H22	99	98	99	98
H24	100	101	100	100
H25	99	99	100	99
H26	98	99	98	99

標準化得点(全国の平均正答率がそれぞれ100となるよう標準化した得点)により、全国の調査結果との相対的な比較をしている。

【生徒質問紙】



【分析】

教科	生徒質問紙	学校質問紙
<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語B/数学B(活用に関する問題)における難しい問題やかつて無答が多かった問題等にも粘り強く取り組んでいる生徒が増加し、正答率も上昇してきている。 ○ 今年度は、国語A/数学A(習得に関する問題)については、例年に比べ全道、全国に比べ、あと一步の状況にあった。 ○ 数学Bの難問にも、粘り強く取り組み、全国を超える正答率を示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が授業において自分の考えを発表する機会が与えられている実感を感じ、言語活動が充実してきていることを生徒自身が実感するようになってきている。 ○ 小中が連携して教科を学ぶことの重要性の認識、自己有用感の醸成等について、指導を強化してきたことで、学習のきまり、授業の構造化(課題提示、終末の振り返りの意識化)やノート指導等が定着し、それが中学校の指導にも生かされてきた。 ○ 「総合的な学習の時間」の持つ重要性を認識し、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んできた子ども達がB問題で極めて高い得点であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校改善プラン作成の過程で、中学校区単位で小・中学校と市教委協働で分析・検討・協議を行ったことで、RPDCAサイクルが機能し、より実効性のある改善プランが機能するようになってきている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ チャレンジテストの取組なども含め、基礎・基本の確実な定着に向けた各学校の取組が国語に対する苦手意識払しょくに有効に機能し、「国語の学習が好き、将来役に立つ」と肯定的に受け止める生徒が増えてきた。 ○ 地域や社会の出来事に関心があること、新聞を読んでいること等と生徒の学力に高い相関があることが明らかになってきた。 ○ 家庭で学校でのことが会話に登場することや、学校行事に保護者がよく出席すること、生徒の学力に、強い相関があることが明らかになってきた。 ○ 教職員が協働して、教科・領域横断的に言語活動の充実や道徳教育、総合的な学習の時間の内容改善等を意識したカリキュラム構築に参画したり、小中の教育連携を意識した授業改善を図るようになってきた。 ○ 特別支援教育についての理解が深まり、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行うことが日常的になってきている。 	

【北広島市の学力向上策】

- 北広島市では、平成19年以降毎年実施されている学力・学習状況調査をクロス集計結果なども含めて分析する中で、市内各小・中学校に共通する克服すべき課題を見付け、平成23年度から市の学校教育改善プランとして「五つの提言」を提示し、市内各校の学校改善プランや次年度学校経営構想に盛り込むよう、学校教育指導を行い、市内全体として状況の改善に努めてきた。

「五つの提言」		(平成23年から)
北広島市の小・中学校では	全 子 ど も 達 に	① 教科の魅力を伝える授業を
北広島市の学校・家庭では		② 丁寧なノート指導を
北広島市の学校・家庭・地域では		③ 家庭学習習慣の定着と充実を
		④ 読書に向かわせることを
		⑤ 生活習慣の改善を

- 学校教育担当のみならず、社会教育、保健福祉等の側面支援も得ながら推進してきたこの提言を、より実効性のあるものとするために、次年度に向けては、より具体的な数値目標など評価指標を設定(「見える化」)し、学校・家庭・地域三者の協働で、更なる改善を図っていく。また「五つの提言」のうち、学校毎に課題が異なる部分については、学校が独自に目標を設定し、その取り組み、進捗状況を校区の保護者に情報公開するよう、促していく。